



弓達 秀樹 議員
(一括質問方式)

- ① 大洲市の観光拠点、肱南・大洲城周辺整備
- ② 幼児保育現場の環境整備と保育士の処遇改善
- ③ 今後の学校統廃合方針と教育現場の現状改善

大洲市の観光拠点、肱南・大洲城周辺整備について

問 人口減少傾向が顕著な状況の中、交流人口を増やすことを目標とするならば、大洲市の観光拠点である肱南・大洲城周辺の基盤整備が重要課題となるが、今後の整備計画についてどのように考えているのか。

答 大洲城の城郭を利用した歴史的な環境を有する城山公園は、大洲城天守閣の復元事業に合わせた一体的な整備を図るべく、天守閣へ通じる園路や周遊散策路などを整備してきました。また、愛媛県では初となる国の認定を受けた大洲市歴史的風致維持向上計画では、肱南地区を中心とした

各種事業が展開されている大洲城周辺



277ヘクタールを重点区域とし、歴史的風致を維持向上していく事業を展開しているところです。平成25、26年度には、文化財の説明看板を設置するなど、周辺整備にも取り組んでいるところです。また、平成25年度には公園としての回遊性を高めるとともに、石垣改修広場整備工事等を平成31年度までに進めていく計画としています。

幼児保育現場の環境整備と保育士の処遇改善について

問 新年度4月から実施される子ども・子育て支援新制度を目前にして、保育に関わる職員の適正な人員配置や増員、また今後の

処遇改善についてはどのように図っていくべきと考えているのか。

答 当市の保育所に勤務する保育士数は、昨年4月1日現在で正職63人、嘱託67人、臨時14人となっています。またこの他に、障がい児担当や長時間保育を実施するための非常勤職員もおり、それぞれの役割を踏まえながら職員を配置しています。

最近の保育現場においては、雇用環境の変化や住民ニーズの多様化などから、配置基準に沿った保育士の確保が追いつかない状況も出てきています。また、保育士の業務が、従来の保育業務から質と量が大きく変わってきており、かなりハードな職種の一つと捉えられているのではないかと推察しています。

このような中で、保育士の人員確保の問題と処遇の問題については、現在どの自治体でもそういう悩みを抱えているのが実態です。今後においても、保育士の確保につながる有効策の研究を行い、嘱託職員等の処遇改善については、他の自治体との均衡また民間事業所等の状況を参考にしながら、引き続き検討していきたいと考えています。

今後の学校統廃合方針と教育現場の現状改善について

問 不登校児童・生徒への対応など、教職員の大きな負担となっている。今後できるだけ教員に負担がかからないような対応をどのように考えているか。

答 教職員の学校への配置は、法律及び県の規定で定数が定められています。本市では県から児童・生徒の支援や35人編成、少人数編成等で加配教員を定数外で各校に置くことで、その負担を少しでも軽減するように配慮しています。

また、非常勤講師やスクールカウンセラー、ハートなんでも相談員、スクールソーシャルワーカー等を配置し、児童・生徒の直接的な支援や教職員の負担軽減等を行っているところです。

また、本市は、不登校状態にある児童・生徒や青年のための適応指導教室である「おおずふれあいスクール」を国立大洲青少年交流の家に設置して、学校復帰を目的とした学習や体験活動、集団活動等を通して集団生活への適応力の向上を図るとともに、心の居場所の提供に努めています。現在のところ本市には重大な生徒指導困難校はありませんが、中学校では毎月各校持ち回りで生徒指導連絡協議会を開催し、授業参観や情報交換、警察や児童相談所等の関係機関との情報交換を実施するなど連携に努めています。